

【受験生へ】小論文入試への取り組み⑤

～ 「構想メモ」の必要性 ～

国語科主任 八木

紙飛行機を飛ばすときのことを考えてみてください。遠くに飛ばすには、投げ出す角度・強さ、風向きなど、様々な要素を考えます。うまく風に乗れば思いの外、遠くまで飛ばすことができます。

小論文も、いきなり書き出すのではなく、段落構成（前回紹介した三段落構成が基本）ごとの内容を記した「構想メモ」を作成してから書き出すようにしましょう。

構想メモの例《具体例 テーマ 「ボランティア」について》

序論 ボランティアの定義と問題点の指摘

定義 ボランティアとは無報酬で他人のために奉仕すること。

問題点 日本でボランティア活動が根付いていない。

経験者は多いが、継続的に活動している人は少ない。

本論 ボランティアの現状と理想 譲歩の構文を使用 具体例の提示

もちろん 広い意味でのボランティア活動の経験はあったほうがいいだろう。

しかし 継続的・持続的な活動となっていかなければ、個人や社会の在り方を変えることはできない。

たとえば 福祉先進国・北欧諸国の例

結論 ボランティア活動の定着に向けて 問題解決策の提示

小さな流れが大きな流れになるには、自発的な奉仕の精神が育つのを待っていることはできない。制度的な後押しがなければ、ボランティア活動は定着しない。

「構想メモ」なくして、説得力のある的確な構成の論文は書くことはできません。つまり、建築物の骨組み（または設計図）にあたるものが「構想メモ」なのです。